



ウイークリーシグナル

2025年10月17日

<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位:億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスター	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/20 (月)	▲ 600	▲ 6,100	▲ 6,700	国庫短期証券発行（3M） 流動性供給	国債補完供給 1,400		日：日銀の高田審議委員が中国経済連合会で講演 米：米景気先行指標総合指数（9月）
10/21 (火)	トン	▲ 4,000	▲ 4,000				日：臨時国会召集 ：日銀の冰見野副総裁が「GZEROサミットジャパン2025」で講演 欧：ラガルドECB総裁がノルウェー中銀の気候カンファレンスで基調講演
10/22 (水)	トン	▲ 8,000	▲ 8,000	国債発行（GX10年）			日：貿易収支（9月） 欧：ラガルドECB総裁が金融関連サミットで基調講演（フランクフルト）
10/23 (木)	トン	+ 3,000	+ 3,000				日：春季生活闘争基本構想の公表 日銀金融システムレポート（25年10月号） 米：新規失業保険申請件数（10月18日終了週） 欧：EU首脳会議（ブリュッセル）
10/24 (金)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000	流動性供給			日：全国CPI（前年比）（9月） 米：CPI（9月）

<インバーアンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆2,300億円減少し、489兆6,800億円から始まった。その後、国債発行や源泉税揚げ、年金定時払い等の要因により増減し、10月17日は497兆4100億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物0.460%～0.610%のレンジ、1M～3M物0.590～0.620%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、10月20日に日銀の高田審議委員が中国経済連合会で講演、21日に日銀の冰見野副総裁が「GZEROサミットジャパン2025」で講演、24日に全国CPI（前年比）（9月）の公表、海外では21日と22日にラガルドECB総裁の基調講演、24日に米CPI（9月）の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
0/N	0.450～0.478
1M	0.55～0.65
2M	0.60～0.65
3M	0.64～0.75
6M	0.75～0.90

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.60～0.75

<レポ>

足許GCは週を通して+0.495%～+0.50%の狭いレンジで取引された。短国債の発行が重なった17日の取引では+0.50%を上回る出合いも見られた。

SC取引は2年470～477回債、5年155～180回債、10年355～371、378～379回債、20年110～130回債などに引合いが見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,000億円で、週間償還額の9,650億円を上回った。発行残高は、先週末時点の23兆3,532億円から、10月16日時点23兆8,731億円へと増加した。発行市場では、ガス業・卸売業・建設業をはじめとする幅広い業種で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.50%台後半、3か月物で0.70%台を中心に、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は1兆1,000億円となっている。発行市場は、月末週に向けた底堅い調達ニーズから、相応の発行が見込まれる。発行レートについては、政策金利の引き上げに対する警戒感があり、引き続き水準を見極める展開が予想される。

【レンジ】CP3M (a-1+) 0.60%～0.75% 現先取引 0.40%台

<TDB>

10月16日の1Y（1338回債）の入札は、最高落札利回り0.7505%（前回債0.7343%）、平均落札利回り0.7414%（前回債0.7273%）となった。

10月17日の3M（1339回債）の入札は、最高落札利回り0.4680%（前回債0.4954%）、平均落札利回り0.4571%（前回債0.4901%）となった。

来週の入札は24日に3Mが予定されている。